

図表 2-4-14 積立比率の推移

年度	厚生年金	国共済	地共済	私学共済	国民年金 (国民年金勘定)
平成	年	年	年	年	年
7	6.3	7.4	12.2	12.9	4.1
8	6.2	7.4	12.8	13.0	5.2
9	6.1	7.6	13.0	12.7	4.8
10	6.0	7.7	12.6	12.4	4.9
11	6.2	7.6	12.4	12.3	5.1
12	6.1	7.3	12.4	11.9	5.2
13	5.9	7.3	12.3	11.7	5.0
14	5.6	7.2	12.0	11.4	4.9
	[5.5]	[7.3]			[4.8]
15	5.5	7.0	11.4	10.7	4.8
	[5.2]	[7.1]	[11.2]	[10.8]	[4.6]
16	5.2	7.2	10.9	10.5	4.7
	[5.2]	[7.3]	[10.9]	[10.6]	[4.6]
17	5.2	7.4	10.5	10.3	4.3
	[5.2]	[7.5]	[10.7]	[10.6]	[4.3]
18	4.9	7.1	10.6	10.3	3.8
	[5.2]	[7.4]	[11.2]	[10.8]	[4.0]
19	4.7	6.7	10.5	10.1	3.7
	[5.0]	[7.0]	[11.1]	[10.6]	[3.9]
20	4.5	6.3	10.1	9.9	3.5
	[4.6]	[6.4]	[10.0]	[9.8]	[3.6]
対前年度増減差					
8	△ 0.1	△ 0.0	0.6	0.1	1.1
9	△ 0.1	0.3	0.2	△ 0.3	△ 0.4
10	△ 0.1	0.1	△ 0.4	△ 0.3	0.1
11	0.1	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	0.3
12	△ 0.1	△ 0.2	0.0	△ 0.3	0.1
13	△ 0.2	△ 0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.2
14	△ 0.3	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.1
15	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.6	△ 0.7	△ 0.1
	[△0.3]	[△0.2]			[△0.2]
16	△ 0.2	0.1	△ 0.6	△ 0.2	△ 0.1
	[△0.0]	[0.2]	[△0.3]	[△0.1]	[0.0]
17	△ 0.1	0.2	△ 0.3	△ 0.2	△ 0.4
	[0.0]	[0.2]	[△0.2]	[△0.0]	[△0.3]
18	△ 0.3	△ 0.3	0.0	0.0	△ 0.5
	[△0.0]	[△0.1]	[0.5]	[0.2]	[△0.3]
19	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.0	△ 0.2	△ 0.1
	[△0.1]	[△0.4]	[△0.1]	[△0.2]	[△0.1]
20	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.5	△ 0.2	△ 0.2
	[△0.5]	[△0.6]	[△1.1]	[△0.8]	[△0.4]

注1 []内の数値は、時価ベースである。

注2 厚生年金は決算ベースであり、厚生年金基金による代行分を含まない。

注3 国共済の時価ベースは、平成11年度7.7、12年度7.5、13年度7.4となっている。

5 被保険者及び受給権者のコーホート分析

(1) 被保険者のコーホート分析

被保険者について、年齢別のコーホート（同じ生年度の集団）に着目して、被保険者数や1人当たり標準報酬月額、1人当たり標準賞与額の動向を分析する。

ここでいう年齢別コーホートは、例えば、平成19年度末に19歳であった者の集団が20年度末に20歳になるまでの動きを捉えるものであり、20年度末の年齢（例の場合は20歳）を基準として表記することとする。

年齢別被保険者数のコーホート増減率をみると（図表2-5-1）、被用者年金では、平成20年度末に20歳代前半となるコーホートで各制度とも大きく増加しており、大学や短大等を卒業して新たに被用者年金に加入する者が多い状況が反映されている。各制度で最も大きく増加しているのは、厚生年金男性、国共済、地共済が23歳、厚生年金女性、私学共済が21歳となっている。逆に、国民年金の第1号被保険者は、学生等が就職していくことを反映して20歳代前半のコーホートを中心に大きく減少している。

厚生年金の女性と私学共済では、結婚や出産・育児の影響等で、それぞれ25～37歳、26～32歳のところで減少している。その後の年齢では徐々に増加しており、出産・育児等を経て再び就業しはじめる状況がうかがえる。一方、国民年金の第3号被保険者は30歳まで二桁の増加となっている他、30歳代前半のコーホートでの伸びも大きい。

60歳代前半及び後半のコーホートは、各制度とも大きく減少しており、被用者が退職などにより次第に脱退していく様子が見られる。制度別にみると、厚生年金では男性が60歳、63歳、65～66歳、女性が60歳、65～66歳での減少が大きい。国共済では61歳、64歳、66歳で、地共済では61歳、66～67歳、69歳において40%を超える大きな減少となっている。私学共済では66歳での減少が大きい。他制度に比べ60歳代前半のコーホートで減少が小さくなっている。

また、厚生年金の女性では50歳、私学共済では55歳までの各コーホートで増加傾向となっているのに対して、厚生年金の男性では30歳、国共済では39歳から減少傾向が見られるなど、制度により特性が異なる面もみられる。

図表 2-5-1 年齢別被保険者数のコーホート増減率
(平成19年度末→平成20年度末)

年齢 (平成20年度末)	厚生年金		国共済	地共済	私学	国民年金	
	男性	女性				第1号	第3号
	%	%	%	%	%	%	%
20歳	8.8	20.7	4.4		52.4		
21歳	35.8	78.7	12.1	101.1	3823.5	△ 13.7	115.5
22歳	12.6	13.6	17.7	74.2	32.5	△ 8.5	41.4
23歳	61.2	51.7	46.5	164.3	49.3	△ 34.0	51.5
24歳	13.0	3.8	10.7	40.6	1.6	△ 15.5	29.1
25歳	9.6	△ 0.3	7.0	17.3	3.9	△ 13.9	55.0
26歳	4.0	△ 2.7	3.5	13.1	△ 5.0	△ 8.3	31.6
27歳	1.4	△ 3.8	1.9	5.8	△ 6.1	△ 3.0	24.3
28歳	0.6	△ 4.5	1.9	2.8	△ 5.2	△ 0.5	15.9
29歳	0.1	△ 4.7	1.7	2.9	△ 4.3	△ 1.7	17.5
30歳	△ 0.1	△ 4.5	1.2	1.6	△ 3.2	△ 2.6	14.7
31歳	△ 0.4	△ 4.2	1.2	1.3	△ 2.2	△ 0.7	7.1
32歳	△ 0.6	△ 3.6	0.8	△ 0.5	△ 0.9	1.9	2.2
33歳	△ 0.6	△ 3.0	0.7	3.4	0.1	1.9	6.3
34歳	△ 0.6	△ 2.4	1.6	△ 0.5	1.2	2.6	5.9
35歳	△ 0.7	△ 1.7	1.5	△ 0.5	0.9	0.5	0.4
36歳	△ 0.8	△ 0.9	0.7	△ 3.9	1.7	0.5	△ 2.7
37歳	△ 0.9	△ 0.3	0.1	0.1	1.1	△ 0.9	4.7
38歳	△ 0.9	0.3	0.1	0.4	1.4	△ 1.9	△ 2.8
39歳	△ 0.9	1.0	△ 0.9	0.2	2.2	0.7	△ 0.7
40歳	△ 0.9	1.5	△ 0.0	△ 1.8	1.3	△ 0.1	△ 4.0
41歳	△ 1.0	1.9	△ 0.5	△ 3.0	2.1	1.9	0.1
42歳	△ 1.1	2.0	△ 0.6	1.8	2.0	3.8	△ 1.6
43歳	△ 1.1	2.2	△ 1.2	1.2	1.6	1.3	4.0
44歳	△ 1.1	2.2	△ 0.3	△ 0.8	1.8	1.3	0.2
45歳	△ 1.2	1.9	△ 0.5	3.5	2.9	△ 1.3	△ 3.3
46歳	△ 1.3	1.6	△ 0.9	3.9	2.0	5.1	△ 6.0
47歳	△ 1.2	1.3	△ 1.1	△ 0.7	1.7	3.6	△ 0.9
48歳	△ 1.3	1.0	△ 1.1	△ 2.6	1.4	6.3	△ 3.5
49歳	△ 1.3	0.5	△ 1.1	△ 1.0	1.3	1.6	△ 0.8
50歳	△ 1.5	0.1	△ 1.1	1.0	0.8	1.8	△ 2.4
51歳	△ 1.4	△ 0.2	△ 1.1	△ 2.0	1.0	1.9	△ 1.1
52歳	△ 1.5	△ 0.4	△ 0.9	△ 1.1	0.3	3.8	△ 0.3
53歳	△ 1.4	△ 0.9	△ 1.3	△ 2.6	0.4	3.9	△ 3.4
54歳	△ 1.1	△ 1.1	△ 17.5	△ 3.1	1.0	4.2	1.6
55歳	△ 1.7	△ 2.0	△ 5.8	△ 3.6	0.2	5.0	△ 2.0
56歳	△ 1.8	△ 2.2	△ 4.4	0.8	△ 0.7	4.8	△ 8.9
57歳	△ 2.1	△ 2.8	△ 5.2	△ 3.4	△ 0.7	6.0	△ 6.3
58歳	△ 2.4	△ 3.3	△ 6.7	△ 3.1	△ 0.4	5.6	△ 11.6
59歳	△ 2.8	△ 4.1	△ 8.1	△ 4.0	△ 1.5	5.1	△ 8.4
60歳	△ 17.3	△ 17.8	△ 16.1	△ 14.3	△ 1.1	△ 93.7	△ 100.0
61歳	△ 4.3	△ 11.6	△ 64.0	△ 91.3	△ 4.7	12.9	
62歳	△ 9.2	△ 10.3	△ 19.8	△ 13.0	△ 2.7	△ 11.8	
63歳	△ 17.8	△ 10.2	△ 22.2	△ 29.5	△ 5.2	1.4	
64歳	△ 13.6	△ 10.8	△ 45.0	△ 32.7	△ 6.4	△ 10.9	
65歳	△ 22.0	△ 21.5	△ 14.5	△ 14.4	△ 8.2	△ 89.8	
66歳	△ 18.9	△ 16.6	△ 84.7	△ 59.7	△ 28.8	△ 28.9	
67歳	△ 14.1	△ 11.8	△ 18.1	△ 59.2	△ 9.2	△ 29.9	
68歳	△ 13.5	△ 11.2	△ 25.8	△ 24.8	△ 11.4	△ 13.0	
69歳	△ 13.7	△ 10.9	△ 34.4	△ 56.6	△ 15.3	△ 62.1	

注 年齢は、各コーホートの平成20年度末における年齢である。

年齢別1人当たり標準報酬月額（賞与は含まない）のコーホート増減率をみると（図表2-5-2）、各制度とも年齢が低い層で増加が大きくなっている。

厚生年金では、45歳までのコーホートで総じて男性の伸びが女性より大きい、年齢の高い層では逆転している。厚生年金男性の53歳以上では減少しており、特に60歳における14.7%減、61歳における8.5%減が大きな減少となっている。

国共済、地共済、私学共済では61歳における減少が最も大きく、それぞれ7.0%減、20.8%減、8.0%減となっている。また、地共済では45歳以上のコーホートで減少している。

図表2-5-3は、年齢別1人当たり標準賞与額のコーホート増減率である。ここでは、年度末の被保険者について、年度累計の標準賞与額を年度末の被保険者数で除したものでコーホート増減率を算出している。従って、年度中に新規加入した者については、実際に支給された賞与が対象となるため、通常に比べ賞与の回数や額が少なくなっていることが考えられる。一方で、年度中の脱退者に係る標準賞与額は対象に入らない。

総じて20歳代前半のコーホートで、1人当たり標準賞与額が大きく増加している。特に、厚生年金男性と国共済では20歳と24歳、厚生年金女性では20歳、22歳、24歳、地共済では24歳、私学共済では22歳での増加が他の年齢に比べ大きい、前述のように年度中の新規加入者の標準賞与額は通常より少なくなると推測されることから、被保険者数が増加している年齢の1歳上の年齢のコーホートで増加が大きくなっているものと考えられる。

図表 2-5-2 年齢別 1人当たり標準報酬月額のコホート増減率
(平成19年度末→平成20年度末)

年齢 (平成20年度末)	厚生年金		国共済	地共済	私学
	男性	女性			
	%	%	%	%	%
20歳	13.5	5.4	9.9		4.5
21歳	0.9	3.2	6.1	1.2	7.1
22歳	4.8	5.8	10.4	3.0	9.8
23歳	4.4	7.8	6.5	5.5	9.2
24歳	7.3	6.1	8.8	3.1	6.6
25歳	5.2	3.8	5.9	2.5	3.5
26歳	5.3	3.2	5.3	2.9	5.5
27歳	4.6	2.7	5.4	3.6	4.8
28歳	4.2	2.5	5.8	3.5	5.0
29歳	3.9	2.2	4.9	3.6	5.0
30歳	3.7	1.8	5.0	2.9	5.0
31歳	3.5	1.7	5.0	3.5	5.1
32歳	3.2	1.5	4.6	3.4	4.5
33歳	3.0	1.4	4.3	3.2	4.5
34歳	2.7	1.2	4.2	2.6	4.0
35歳	2.5	1.2	3.9	2.0	3.8
36歳	2.3	1.0	4.2	2.5	3.6
37歳	2.2	1.0	4.5	2.5	2.9
38歳	2.0	0.9	4.0	1.6	2.6
39歳	1.8	0.8	2.9	2.2	2.3
40歳	1.6	0.7	1.2	1.6	2.3
41歳	1.5	0.7	2.3	1.0	1.9
42歳	1.3	0.7	2.7	1.1	1.5
43歳	1.2	0.8	3.2	0.6	1.5
44歳	1.0	0.7	2.2	0.4	1.7
45歳	1.0	0.8	1.7	△ 0.4	1.2
46歳	0.9	0.9	1.5	△ 0.3	1.1
47歳	0.7	0.9	1.4	△ 0.1	0.9
48歳	0.6	0.8	1.0	△ 0.7	0.9
49歳	0.5	0.9	0.8	△ 0.6	0.9
50歳	0.4	0.8	0.7	△ 0.7	0.9
51歳	0.0	0.6	0.6	△ 0.4	0.6
52歳	0.2	0.7	0.5	△ 0.7	0.6
53歳	△ 0.0	0.6	0.9	△ 1.0	0.3
54歳	△ 0.4	0.6	1.1	△ 0.5	0.3
55歳	△ 0.7	0.4	△ 0.0	△ 0.9	0.1
56歳	△ 1.1	0.2	0.2	△ 0.7	0.2
57歳	△ 0.8	0.4	0.1	△ 0.9	0.3
58歳	△ 1.0	0.4	△ 0.1	△ 0.6	0.3
59歳	△ 0.9	0.4	△ 0.1	△ 0.7	0.1
60歳	△ 14.7	△ 3.8	△ 1.1	△ 1.6	△ 0.8
61歳	△ 8.5	△ 3.8	△ 7.0	△ 20.8	△ 8.0
62歳	△ 1.6	△ 0.3	1.2	△ 2.5	△ 0.4
63歳	△ 1.8	0.1	1.3	4.4	△ 0.2
64歳	△ 2.0	0.1	2.3	7.7	△ 0.6
65歳	△ 2.8	0.5	0.5	0.9	△ 0.3
66歳	△ 3.2	△ 0.5	△ 2.7	△ 1.3	△ 5.9
67歳	△ 1.8	0.1	△ 0.4	2.5	△ 0.5
68歳	△ 1.6	0.1	△ 1.1	△ 2.9	0.3
69歳	△ 1.2	0.4	△ 0.4	△ 1.5	△ 0.5

注 年齢は、各コホートの平成20年度末における年齢である。

図表 2-5-3 年齢別1人当たり標準賞与額のコーホート増減率
(平成19年度→平成20年度)

年齢 (平成20年度末)	厚生年金		国共済	地共済	私学
	男性	女性			
	%	%	%	%	%
20歳	56.8	36.4	55.5		18.1
21歳	△ 4.4	4.8	6.5	2.2	14.9
22歳	12.6	27.1	7.0	△ 8.9	41.9
23歳	13.0	16.3	2.2	△ 8.4	8.8
24歳	32.1	26.8	12.1	11.3	14.1
25歳	13.3	5.8	6.0	2.5	△ 1.9
26歳	11.7	2.8	5.6	6.2	2.5
27歳	8.3	2.5	5.7	4.6	3.5
28歳	6.0	1.4	4.3	5.9	3.9
29歳	5.3	1.1	3.6	5.0	4.1
30歳	4.5	0.5	3.9	3.6	3.7
31歳	3.9	0.6	4.9	3.7	4.7
32歳	3.5	0.6	4.2	2.7	4.3
33歳	3.0	0.3	7.5	0.9	3.7
34歳	2.2	0.1	6.5	1.0	2.8
35歳	1.8	0.2	6.0	△ 1.0	2.8
36歳	1.5	△ 0.2	6.3	1.3	2.7
37歳	1.3	0.1	6.5	0.4	1.9
38歳	1.0	△ 0.5	5.9	△ 0.2	1.3
39歳	0.6	△ 0.6	5.5	1.6	1.0
40歳	0.4	△ 0.8	4.2	0.4	0.7
41歳	0.2	△ 1.0	4.9	0.5	0.2
42歳	△ 0.0	△ 1.0	4.0	△ 0.1	0.5
43歳	△ 0.6	△ 1.0	3.0	△ 0.3	0.4
44歳	△ 0.6	△ 1.1	2.5	△ 0.5	0.1
45歳	△ 0.5	△ 1.0	2.0	△ 1.3	△ 0.7
46歳	△ 0.7	△ 1.0	2.0	△ 0.9	△ 0.4
47歳	△ 0.9	△ 0.8	1.7	0.6	△ 0.5
48歳	△ 1.2	△ 1.0	1.5	0.5	△ 1.0
49歳	△ 1.4	△ 0.9	1.5	△ 0.5	△ 0.4
50歳	△ 1.5	△ 1.1	1.3	△ 1.0	△ 0.5
51歳	△ 2.1	△ 1.5	2.6	0.9	△ 0.8
52歳	△ 2.0	△ 1.6	2.8	0.3	△ 0.6
53歳	△ 2.1	△ 1.7	0.9	△ 0.4	△ 1.3
54歳	△ 2.7	△ 2.0	0.4	△ 0.0	△ 0.9
55歳	△ 3.9	△ 2.6	0.0	△ 0.9	△ 0.6
56歳	△ 4.5	△ 3.4	0.8	△ 0.1	△ 0.8
57歳	△ 3.3	△ 2.6	0.7	△ 2.1	△ 0.7
58歳	△ 3.9	△ 2.9	0.7	△ 2.7	△ 1.1
59歳	△ 3.5	△ 3.1	0.1	△ 2.1	△ 1.0
60歳	△ 43.6	△ 25.7	△ 0.7	△ 2.6	△ 2.1
61歳	△ 17.7	△ 21.1	△ 14.5	△ 12.2	△ 13.6
62歳	△ 6.4	△ 5.7	1.8	50.0	△ 0.3
63歳	△ 10.2	△ 6.3	2.1	61.8	△ 1.7
64歳	△ 9.6	△ 5.4	1.6	57.9	△ 2.6
65歳	△ 15.3	△ 10.2	0.2	34.6	△ 1.7
66歳	△ 22.0	△ 13.7	△ 12.3	3.9	△ 14.5
67歳	△ 12.0	△ 5.3	△ 1.8	60.9	△ 0.7
68歳	△ 12.0	△ 5.2	△ 6.7	10.9	△ 1.8
69歳	△ 9.9	△ 4.1	△ 6.5	△ 5.9	△ 5.5

注1 年齢は、各コーホートの平成20年度末における年齢である。

注2 1人当たり標準賞与額は、年度末の被保険者について、年度累計の標準賞与額を年度末の被保険者数で除したものである。

図表 2-5-4 は、年齢階級別標準報酬総額（推計値）のコーホート増減額についてみたものである。

ここでは、

（1人当たり標準報酬月額×12+1人当たり標準賞与額）×年度末被保険者数で算出した標準報酬総額（推計値）を用いて、コーホート増減額を算出している。

被用者年金制度計の標準報酬総額は、平成19年度から20年度にかけて全体で1.2兆円減少しているが、45歳以上の各年齢階級別コーホートで減少する一方、44歳以下では増加しており、標準報酬総額が年齢の高い世代から低い世代へ移転している状況がうかがわれる。制度別にみると、厚生年金の男性と地共済は、被用者年金制度計と同様の傾向である。国共済と私学共済も、全体として標準報酬総額が増加しているものの、年齢の高い世代から低い世代への移転の状況は同じである。一方、厚生年金の女性では、25～34歳及び55歳以上のコーホートで減少する一方、他のコーホートで増加している。

図表 2-5-4 年齢階級別標準報酬総額（推計値）のコーホート増減額
（平成19年度→平成20年度）

年齢階級 (平成20年度末)		厚生年金 男性	厚生年金 女性	国共済	地共済	私学共済	被用者年金 制度計
		億円	億円	億円	億円	億円	億円
標準報酬総額	～24歳	12,493	10,051	781	1,476	523	25,323
	25～34歳	10,780	△ 1,537	824	1,823	109	11,998
	35～44歳	1,985	1,298	726	271	220	4,500
	45～54歳	△ 3,773	723	△ 298	△ 871	114	△ 4,106
	55～64歳	△ 24,667	△ 4,833	△ 1,810	△ 8,830	△ 222	△ 40,362
	65歳～	△ 7,097	△ 1,732	△ 119	△ 123	△ 371	△ 9,441
	計	△ 10,281	3,970	104	△ 6,254	372	△ 12,089
標準報酬月額	～24歳	10,403	8,506	591	1,186	411	21,097
	25～34歳	8,630	△ 1,227	628	1,404	99	9,535
	35～44歳	2,235	1,278	480	329	181	4,502
	45～54歳	△ 2,212	813	△ 248	△ 704	104	△ 2,247
	55～64歳	△ 18,983	△ 3,857	△ 1,330	△ 6,788	△ 146	△ 31,105
	65歳～	△ 6,365	△ 1,585	△ 85	△ 104	△ 274	△ 8,413
	計	△ 6,292	3,928	35	△ 4,677	374	△ 6,631
標準賞与総額	～24歳	2,090	1,545	190	290	112	4,226
	25～34歳	2,149	△ 310	196	419	10	2,464
	35～44歳	△ 250	20	246	△ 58	39	△ 3
	45～54歳	△ 1,562	△ 90	△ 50	△ 167	10	△ 1,859
	55～64歳	△ 5,685	△ 976	△ 479	△ 2,041	△ 76	△ 9,257
	65歳～	△ 732	△ 146	△ 34	△ 19	△ 97	△ 1,028
	計	△ 3,989	42	69	△ 1,577	△ 3	△ 5,458

注1 年齢階級は、各コーホートの平成20年度末における年齢である。

注2 「(1人当たり標準報酬月額×12+1人当たり標準賞与額)×年度末被保険者数」で算出した標準報酬総額(推計値)を用いて算出している。

標準報酬総額のコーホート増減額を標準報酬月額総額分と標準賞与総額分に分けてみると（図表2-5-4）、被用者年金制度計では標準報酬月額総額分の減少と標準賞与総額分の減少がほぼ同程度である。標準報酬月額総額では45歳以上のコーホートから44歳以下のコーホートへ、標準賞与総額では35歳以上のコーホートから34歳以下のコーホートへ報酬が移転している状況となっている。

次に、年齢階級別標準報酬総額のコーホート増減額の要因分析をしたものが、図表2-5-5である。

ここでは、標準報酬総額のコーホート増減額を以下の方法で3つの要因に分解している。

- ・標準報酬総額＝1人当たり標準報酬額×年度末被保険者数 として計算。

（※1人当たり標準報酬額＝1人当たり標準報酬月額×12＋1人当たり標準賞与額）

- ・平成19年度の各年齢階級別コーホートの標準報酬総額について、被保険者数だけを20年度の当該コーホートの人数に置き換えた標準報酬総額を計算し、その差を「人数の変化分」とする。
- ・さらに、1人当たり標準報酬額を平成19年度における1歳上の年齢の値に置き換えて計算し、差額を「賃金の定昇分」とする。
- ・さらに、1人当たり標準報酬額を平成19年度と同一年齢の20年度の値に置き換えて計算し、差額を「賃金のベア分」とする。

厚生年金男性では、全体では人数の変化分と賃金のベア分が減少し、賃金の定昇分が増加しているが、年齢階級別コーホートでみると、年齢の低いコーホートで3つの要因すべてが増加する一方で、55歳以上のコーホートではすべてが減少しており、年齢階級別コーホートにより状況が異なっている。特に、35～44歳における賃金のベア分の減少が目立っている。

国共済では、人数の変化分による減少と賃金の定昇分による増加がほぼ同程度となっている。地共済では、人数の変化分による減少が大きいことに加え、賃金のベア分が減少している。

厚生年金の女性と私学共済で、出産・育児等での離職が多いと考えられる25～34歳のコーホートで人数の変化分が減少しており、特徴的である。

図表 2-5-5 年齢階級別標準報酬総額（推計値）のコーホート増減額の要因分析
（平成19年度→平成20年度）

年齢階級 (平成20年度末)		厚生年金 男性	厚生年金 女性	国共済	地共済	私学共済	被用者年金 制度計
		億円	億円	億円	億円	億円	億円
総 増 減 額	～24歳	12,493	10,051	781	1,476	523	25,323
	25～34歳	10,780	△ 1,537	824	1,823	109	11,998
	35～44歳	1,985	1,298	726	271	220	4,500
	45～54歳	△ 3,773	723	△ 298	△ 871	114	△ 4,106
	55～64歳	△ 24,667	△ 4,833	△ 1,810	△ 8,830	△ 222	△ 40,362
	65歳～	△ 7,097	△ 1,732	△ 119	△ 123	△ 371	△ 9,441
	計	△ 10,281	3,970	104	△ 6,254	372	△ 12,089
人 数 の 変 化 分	～24歳	9,379	7,488	531	1,399	387	19,184
	25～34歳	1,711	△ 3,887	217	907	△ 118	△ 1,170
	35～44歳	△ 3,189	665	△ 26	△ 336	94	△ 2,791
	45～54歳	△ 3,929	339	△ 559	△ 533	87	△ 4,595
	55～64歳	△ 14,406	△ 4,036	△ 1,775	△ 8,233	△ 129	△ 28,579
	65歳～	△ 6,407	△ 1,704	△ 118	△ 136	△ 343	△ 8,708
	計	△ 16,841	△ 1,135	△ 1,729	△ 6,932	△ 22	△ 26,659
賃 金 の 定 昇 分	～24歳	2,574	2,236	189	161	131	5,290
	25～34歳	8,855	1,706	512	1,119	214	12,405
	35～44歳	8,085	195	699	1,565	185	10,729
	45～54歳	△ 599	△ 417	282	989	94	349
	55～64歳	△ 9,496	△ 851	20	△ 272	△ 48	△ 10,647
	65歳～	△ 496	△ 0	1	△ 0	△ 24	△ 520
	計	8,923	2,868	1,704	3,561	551	17,606
賃 金 の ベ ア 分	～24歳	540	327	60	△ 84	5	849
	25～34歳	214	644	95	△ 203	13	764
	35～44歳	△ 2,911	438	52	△ 958	△ 59	△ 3,438
	45～54歳	755	801	△ 22	△ 1,327	△ 67	140
	55～64歳	△ 766	54	△ 55	△ 324	△ 45	△ 1,136
	65歳～	△ 194	△ 27	△ 2	13	△ 4	△ 214
	計	△ 2,363	2,237	129	△ 2,882	△ 157	△ 3,036

注1 年齢階級は、各コーホートの平成20年度末における年齢である。

注2 「(1人当たり標準報酬月額×12+1人当たり標準賞与額)×年度末被保険者数」
で算出した標準報酬総額(推計値)を用いて算出している。

注3 平成19年度と20年度の同一年齢どうしでみた増加分を賃金のベア分として計上
している。

(2) 老齢・退年相当の受給権者のコーホート分析

老齢・退年相当の受給権者について、年齢別コーホートごとの受給権者数及び平均年金月額の変動をみる。

年齢別受給権者数（老齢・退年相当）のコーホート増減率をみると（図表 2-5-6）、被用者年金では 61 歳で大きく増加している。被用者年金の支給開始年齢は 60 歳であるため、ここでの増加は少し遅れて裁定された者による増加と考えられる。国民年金では、繰上げをする者から順次裁定されて受給権者になっていく状況がうかがわれ、支給開始年齢である 65 歳のところで著しい増加となっている。

図表 2-5-6 年齢別受給権者数（老齢・退年相当）のコーホート増減率
（平成 19 年度末→平成 20 年度末）

年齢 (平成20年度末)	厚生年金		国共済	地共済	私学	国民年金	
	男性	女性				男性	女性
	%	%	%	%	%	%	%
61歳	36.3	35.2	60.2	40.7	34.8	63.7	54.0
62歳	3.6	3.3	0.8	△ 0.8	2.4	12.8	16.4
63歳	4.2	1.9	0.4	△ 0.9	2.1	7.7	18.6
64歳	1.6	1.8	0.2	△ 1.0	1.3	4.0	9.9
65歳	△ 1.9	2.9	△ 0.2	△ 0.7	△ 10.1	796.2	534.7
66歳	4.7	5.7	△ 0.5	△ 0.0	9.5	9.6	11.6
67歳	△ 0.8	△ 0.1	△ 0.8	△ 0.3	△ 0.0	△ 0.0	0.5
68歳	△ 1.0	△ 0.1	△ 1.0	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.5	0.2
69歳	△ 1.1	△ 0.2	△ 1.0	△ 0.6	△ 0.4	△ 0.9	△ 0.1
70歳	△ 0.5	1.2	△ 1.3	△ 0.7	△ 0.2	△ 0.7	0.1
71歳	△ 1.4	△ 0.2	△ 1.3	△ 0.8	0.4	△ 1.3	△ 0.4
72歳	△ 1.9	△ 0.7	△ 1.5	△ 0.9	△ 1.1	△ 1.8	△ 0.6
73歳	△ 2.1	△ 0.8	△ 1.8	△ 1.2	△ 1.4	△ 2.1	△ 0.8
74歳	△ 2.4	△ 1.0	△ 1.9	△ 1.3	△ 1.2	△ 2.3	△ 0.9
75歳	△ 2.7	△ 1.2	△ 2.3	△ 1.6	△ 1.6	△ 2.7	△ 1.1
76歳	△ 3.1	△ 1.2	△ 2.4	△ 1.8	△ 1.8	△ 3.0	△ 1.2
77歳	△ 3.4	△ 1.4	△ 2.7	△ 2.1	△ 2.0	△ 3.4	△ 1.4
78歳	△ 4.0	△ 1.7	△ 3.2	△ 2.3	△ 2.8	△ 3.9	△ 1.6
79歳	△ 4.4	△ 2.0	△ 3.5	△ 2.9	△ 3.2	△ 4.3	△ 1.9
80歳	△ 5.1	△ 2.3	△ 4.2	△ 3.3	△ 3.3	△ 5.0	△ 2.2
81歳	△ 5.5	△ 2.6	△ 4.6	△ 3.9	△ 4.1	△ 5.5	△ 2.5
82歳	△ 6.3	△ 3.0	△ 5.3	△ 4.6	△ 4.9	△ 6.2	△ 2.9
83歳	△ 7.1	△ 3.4	△ 6.1	△ 5.2	△ 4.8	△ 7.2	△ 3.4
84歳	△ 7.9	△ 3.9	△ 6.7	△ 5.7	△ 5.0	△ 7.9	△ 4.0
85歳	△ 8.6	△ 4.6	△ 7.4	△ 6.5	△ 5.9	△ 8.7	△ 4.7
86歳	△ 9.5	△ 5.1	△ 8.5	△ 7.3	△ 7.3	△ 9.7	△ 5.3
87歳	△ 10.7	△ 5.7	△ 9.7	△ 8.1	△ 6.5	△ 10.7	△ 6.1
88歳	△ 11.6	△ 6.6	△ 9.9	△ 8.9	△ 7.3	△ 11.8	△ 7.1
89歳	△ 13.0	△ 7.5	△ 11.6	△ 10.1	△ 8.7	△ 12.4	△ 8.1

注 年齢は、各コーホートの平成20年度末における年齢である。

図表 2-5-7 は、年齢別平均年金月額（老齢・退年相当）のコーホート増減率である。この図表では、厚生年金は平均年金月額に基礎年金分を含んでいるが、国共済、地共済、私学共済は基礎年金分を含んでいないため、留意が必要である。

厚生年金男性、国共済、地共済、私学共済では、平成 20 年度末で 63 歳の者の定額部分の支給開始年齢が 63 歳であることから、20 年度末で 63 歳になるコーホートの平均年金月額は、新たに定額部分が支給されるようになったことを反映し、それぞれ 64.9%増、57.5%増、40.9%増、47.6%増と大きく増加している。同様に、厚生年金の女性では、20 年度末で 61 歳になるコーホートで、定額部分の支給開始年齢が 61 歳であることを反映して、121.5%増となっている。

また、厚生年金男性、厚生年金女性では、65 歳でそれぞれ 1.9%増、12.5%増となっており、65 歳以上の本来支給で平均年金月額が増えている状況がうかがえる。なお、国共済、地共済、私学共済では、平均年金月額に基礎年金分が含まれていないため、特別支給から本来支給に変わる 65 歳のコーホートで大きく減少している。

国民年金は、60 歳代前半は繰上げを選択した者に限られているため、本来の支給開始年齢に達する 65 歳のコーホートで、平均年金月額が大きく増加している。

図表 2-5-7 年齢別平均年金月額（老齢・退年相当）のコーホート増減率
 （平成19年度末→平成20年度末）

年齢 (平成20年度末)	厚生年金		国共済	地共済	私学	国民年金	
	男性	女性				男性	女性
	%	%	%	%	%	%	%
61歳	1.5	121.5	2.5	9.4	0.1	1.2	5.8
62歳	0.9	0.2	0.1	△ 0.0	0.1	1.3	5.6
63歳	64.9	△ 2.7	57.5	40.9	47.6	4.7	3.9
64歳	△ 0.6	△ 2.2	△ 0.2	△ 0.2	0.0	4.6	2.5
65歳	1.9	12.5	△ 28.4	△ 25.9	△ 22.4	92.7	36.4
66歳	△ 1.3	0.2	△ 1.2	△ 4.6	△ 1.0	0.1	0.5
67歳	△ 1.4	0.2	△ 1.9	△ 0.9	△ 0.9	0.1	0.1
68歳	△ 1.3	0.3	△ 1.9	△ 1.0	△ 0.9	0.2	0.1
69歳	△ 1.2	0.2	△ 1.8	△ 0.9	△ 0.6	0.2	0.1
70歳	△ 0.3	1.5	△ 1.5	△ 0.8	1.6	0.7	0.4
71歳	△ 0.5	0.5	△ 1.2	△ 0.6	△ 0.4	0.3	0.2
72歳	△ 0.5	0.1	△ 0.8	△ 0.4	△ 0.8	0.1	0.1
73歳	△ 0.2	0.1	△ 0.4	△ 0.3	△ 0.6	0.1	0.1
74歳	△ 0.0	0.1	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.5	0.1	0.1
75歳	0.1	0.1	△ 0.1	△ 0.0	△ 0.4	0.1	0.1
76歳	0.2	0.1	△ 0.1	△ 0.0	△ 0.1	0.1	0.1
77歳	0.2	0.1	0.0	0.0	△ 0.3	0.1	0.1
78歳	0.2	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	0.1	0.1
79歳	0.2	0.0	△ 0.0	0.1	△ 0.1	0.1	0.1
80歳	0.2	0.0	0.0	0.1	△ 0.3	0.2	0.1
81歳	0.2	△ 0.0	△ 0.0	0.0	0.1	0.2	0.1
82歳	0.2	△ 0.0	△ 0.1	0.0	△ 0.5	0.2	0.1
83歳	0.1	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.0	△ 0.2	0.3	0.2
84歳	0.1	△ 0.1	△ 0.0	△ 0.0	△ 0.4	0.2	0.1
85歳	0.1	△ 0.0	0.0	△ 0.0	△ 0.4	0.3	0.2
86歳	0.1	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.4	0.3	0.2
87歳	0.1	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.0	△ 0.5	0.2	0.2
88歳	△ 0.0	△ 0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.0	0.2	0.2
89歳	△ 0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.4	0.2	0.2

注1 年齢は、各コーホートの平成20年度末における年齢である。

注2 厚生年金の平均年金月額は基礎年金分を含み、国共済、地共済、私学共済の平均年金月額は基礎年金分を含んでいない。

